

「リヤカーだと気軽に声を掛けてもらえる。命の大切さを訴える本を多くの人に読んでもらいたい」。脳性まひのハンディを抱えながら、念願だったリヤカー付きの自転車で全国行商の旅に出発した。

未熟児で生まれ、高熱を発して脳性まひになった。高校の担任の影響で文学に興味を持ったことが人生の転機に。大学卒業後、書店や印刷会社で修業し、二十五歳で「燦葉出版社」（東京）を設立した。

編集や校正のほか、洋書の翻訳なども一人でこな

■命の大切さを訴える本を多くの人に

たかゆき  
隆之さん

しろい  
井白

しんが  
行商  
で出版  
一冊出  
カール  
ヤリを  
製国  
特全

この人



す。これまでキリスト教や「中村輪業」に依頼して電障害者になつたつる書籍を中心に三十六年間で約三百冊を出版した。本を収める車体後部の荷

台には「輝いていられるよ  
サククに本を詰め、全国の  
書店や学校を回っても「な  
かな取り合ってもらえな  
かた」。一方で、電車と  
徒歩による行商が体に負担  
となり、長崎県南島原市の  
六十一歳。

(杉浦修)